姫路城城下町跡第 522 次発掘調査概要

資料提供日
令和 8 年 11 月 12 日（木曜日）

調査の概括事項
調　査　名：姫路城城下町跡第 522 次発掘調査
調査の内容：江戸時代のカマド約 10 基、塼列建物 2 基、井戸 2 基、建物礎石、土坑、埋甕など
調 査 期 間：令和 8 (2026)年 10 月 15 日(木)～12 月中旬予定
調 査 原 因：建物建設
調 査 面 積：584.55 ㎡

遺跡の概要
調査地は姫路城の外曲輪南西部に位置する。城下町絵図によれば、江戸時代を通じて町人地であったことが示されている。敷地の北側は、現在国道 2 号線となっている姫路城の中堀に接し、中曲輪の城門である鵮門にも近く、また南を通る東西街路は、江戸時代初期の山陽道（西国街道）だったとされており、城下町のなかでも人々の往来が多く、賑わっていた場所と考えられる。
今回の調査地と同じ旧西国街道沿いにあり、調査地から西へ約 200m離れた地点で実施した第 437 次調査では、カマドや塼列建物などの遺構を確認し、大店と呼ばれる大きな商店が存在した可能性があることが判明した。また、437 次の調査地と街路を挟んだ南側で実施した第 476 次調査では、塼列建物など蔵の可能性がある遺構を複数確認している。

調査の概要
調査区を南北に分割し、南側から調査を進め、現在も南側の調査を継続している。現在も調査中であるが、現時点までに検出した遺構は、ほとんどが江戸時代のものと考えられ、カマド約 10 基、塼列建物 2 基、井戸 2 基のほか、建物の礎石や複数の土坑、埋甕などである。
・カマド：約 10 基確認した。カマドを確認した場所は調査区東部、中央部、西部の 3 箇所に分かれており、そのうち西部では約 6 基がまとまって見つかった。
・塼列建物：調査区中央西寄りで、塼とよばれるタイル状の瓦を建物の基部外周に立て並べた塼列建物を 2 基確認した。残りが良い北側では、北辺に長さ約 3.6m、東・西辺に長さ約 5 mの塼列を確認した。これまでの研究により、塼列建物は蔵などに使用されたものと考えられている。
・井戸：調査区西部と中央部でそれぞれ 1 基ずつ石組の井戸を確認した。

今回の調査では、江戸時代の街道沿いにおける町屋の様子を示す遺構が多く見つかった。そのうちカマドが 3 箇所に分かれて見つかったことから、少なくとも調査区には 3 軒の敷地が存在したと推測できる。また、約 6 基のカマドが見つかった調査区西部では、調査区中央に位置する塼

列建物を含めた、広い敷地の存在が想定され、街道沿いに大きな商店などが建ち並んでいた様子をうかがうことができる。





発掘現場　調査風景（南西から）



調査区西部　並んで出土したカマド（北東から）



調査区西部　カマド近景（西から）



調査区中央部　塼列建物（南から）



調査区西部　井戸（北から）